

社会学研究科

研究指導概要

博士前期課程

1. 各セメスターの指導内容

1セメスター

- ・指導教授の決定・「学位論文題目届」を提出する。(4月)
- ・指導教員と修士論文のテーマ・方法などについて相談する。
- ・博士前期（修士）課程における研究計画を検討し、先行研究の検討に着手する。
- ・研究テーマに合わせ、科目履修を進め、調査・実験等の方法論を修得する。

2セメスター

- ・具体的な研究テーマに関して資料収集等を進め、当該分野の先行研究の検討を深め、学会での発表や論文投稿を目指し研究を具体化する。
- ・研究課題の意義・手法・先行研究などについて報告・討論し、研究者としてのプレゼンテーション力を養う。
- ・修士論文の方向性について指導教員と相談する（「研究指導」等）

3セメスター

- ・「学位論文題目届」を提出する。（4月）
- ・指導教員と修士論文のテーマおよび内容などについて相談・確認する。
- ・資料収集・先行研究等の検討を続け、研究の視座・論理・手法の妥当性を検証し、必要に応じ実証的な知見を得たうえで、研究成果を取りまとめる。

4セメスター

- ・研究の精度を高め、修士学位論文にまとめる。
- ・修士論文「審査願」に指導教授の署名・捺印を受け（修士論文提出時に必要・おおむね12月下旬～1月はじめ）、修士論文を「論文要旨」等とともに提出する。（1月上旬）
- ・口頭試験を受ける。（1月下旬～2月上旬）

2. 論文報告会（論文発表会）等の概要と発表の要件等

<社会学専攻>

- ・「研究指導」等の場で年1～2回程度、中間報告を行う。

<社会心理学専攻>

- ・各学年において、年1～2回の中間報告会で進捗状況の報告を義務づける。また修士論文の提出後には、最終報告会で論文内容について報告することを義務づける。

<福祉社会システム専攻>

- ・2年次に専攻全体の修士論文中間報告会を7月と1月の年2回開催し、指導教授以外からも指導を受ける機会を設ける。

理論と実践の融合を具体的な研究テーマに纏め上げた成果を修士論文中間報告会で発表する。

3. 特定課題研究論文

社会学専攻、福祉社会システム専攻では、修士学位論文に代えて特定課題研究論文の提出を認めている。

『特定課題研究論文』とは、「特定の課題について、実践的に調査・研究した論文」をいう。

- (1) 特定課題研究論文は、12,000字以上のものを3本提出する。
- (2) 修士学位論文または特定課題研究論文については、原則として入学時に選択する（2年次の7月末まで変更を認める）。
- (3) 修了単位として、社会学専攻は30単位以上、福祉社会システム専攻は36単位以上修得（見込）していること。

<社会学専攻>

①博士後期課程進学希望者は、修士学位論文を選択すること。

②特定課題研究論文の1・2・3本目については、主指導教授の指示を受け、適切な時期に、主・副指導教授に直接提出すること。また、3本まとめたものを、下記の通り、修士学位論文に準じた時期に、大学院教務課に提出する必要がある。3本まとめたものの提出にあたっては、提出時期・様式とも修士学位論文に準ずる。

題目届提出締切	論文提出時期（3本まとめたもの）	提出先
4月	修士学位論文提出時期に同じ	大学院教務課

③特定課題研究論文を選択した場合の研究指導スケジュールは、修士学位論文を選択した場合に準ずる。

＜福祉社会システム専攻＞

- ①特定課題研究論文の1・2本目の提出時期については、主旨指導教授の指示に従い、主・副指導教授に提出すること。
- ②中間報告会での報告は、2本目あるいは3本目の完成時期を目標とする。
- ③3本まとめたものの提出は修士学位論文提出の時期・様式と同じとする。
- ④3本の研究課題は相互に関連するものでも、別個のテーマを扱うものでもよい。

博士後期課程

1. 各セメスターの指導内容（モデルケース）

1セメスター

- ・博士後期課程における研究テーマの意義と展開を検討する。
- ・博士後期課程における研究計画を立案する。

2セメスター

- ・研究テーマに即して資料収集等を進めるとともに、当該分野の先行研究の検討を深める。
- ・指導教授と相談の上、学会での発表・論文作成を目指して研究を具体化・実施する。

3セメスター

- ・資料収集等を進め、かつ知見を深め広げるための先行研究等の検討を続ける。
- ・指導教授と相談の上、学会での発表・論文作成を目指して研究を具体化・実施する。

4セメスター

- ・資料収集等を進め、かつ知見を深め広げるための先行研究等の検討をまとめる。
- ・指導教授と相談の上、学会での発表・論文作成を目指して研究を具体化・実施する。
- ・この時期までに査読付き雑誌に最低1本の論文を投稿・掲載されるよう努力する

5セメスター

- ・主旨指導教授が、研究科委員会の承認のもとに、2名以上の本学教員（原則として所属する専攻の博士後期課程研究指導担当教員）とともに課程博士論文提出指導小委員会を構成し、論文が本審査を受けるに値するかどうかの審査が行われる。
- ・指導教授と相談の上、6月末ごろまでに博士論文の下書きを完成させる。

6セメスター

- ・課程博士論文提出指導小委員会からの、本審査を受けるに値すると判断した旨の通知を受け、博士論文の本審査にむけて、論文内容を修正し、学位論文を提出し（11月上旬）、審査を受ける。

2. 論文報告会（論文発表会）等の概要と発表の要件等

- ・毎年1・2回の中間報告を義務づける。
- ・論文提出後に開催される公聴会に参加し、発表する。

社会学研究科 社会学専攻・社会心理学専攻

専門社会調査士資格の取得について

専門社会調査士とは、下記の要件を満たした者について、一般社団法人 社会調査協会（以下、社会調査協会と呼称）に申請し、社会調査協会が認定する資格である。

■資格申請のための要件

- (1) 社会調査士資格を有すること。

[2016年度以前入学生]

社会調査士資格を有していない場合であっても、社会調査士資格の標準カリキュラムに対応する科目の単位を取得していれば、専門社会調査士資格を取得する際、同時に申請することができる（この場合、以下「E」・「F」科目は選択制、「G」科目は不要）。

また、所定の手続（「許可願」を提出）を行うことによって、本学社会学部で開講する社会調査士資格の下記科目を履修することができる。詳細は掲示で確認すること。

社会調査士資格の標準カリキュラム（社会学部開講科目）

区分	本学社会学部開講科目名	備考
A	社会調査入門 A／社会調査入門 I	
B	社会調査入門 B／社会調査入門 II	社会調査入門 I・IIはセット履修
C	統計情報処理および実習 I（第1部） 統計情報処理および実習（第2部）	いずれか1科目で可
D	社会統計学	
E	社会統計解析法	いずれか1科目で可
F	質的調査法	
G	社会調査および実習 A・B／社会調査 および実習	専門社会調査士資格を同時申請する場合は不要。 社会調査および実習 A・Bは通年で履修すること。

※ 特記がない限り、第1部・第2部双方で開講

※ 希望する曜時限の科目が学部生で定員を超える場合等は、履修不可あるいは別の曜時限の同一科目に変更となることがある。

[2017年度以降入学生]

上記学部開講科目の履修を希望する場合は、所定の選考を経た上で、学部科目等履修生（科目履修生／諸資格履修生）として履修が認められる。※原則として実習科目は履修できない。

詳しくは p.68 「21. 大学院生の学部開講科目の履修について」を参照すること。

- (2) 以下の専門社会調査士科目「6科目」(12単位)を履修し、かつ単位を取得すること。

(2014年度以前入学生は、入学年度の履修要覧を参考にすること)

①社会学専攻の場合

区分	社会学専攻開講科目名	単位数
H	社会学特論Ⅲ A	2 単位
	社会学特論Ⅲ B	2 単位
I	社会学特論Ⅳ A	2 単位
	社会学特論Ⅳ B	2 単位
J	社会学特論 V	2 単位
	社会学特論 VI	2 単位

②社会心理学専攻の場合

区分	社会学専攻開講科目名	単位数
H	社会心理学研究法Ⅱ A	2 単位
	社会心理学研究法Ⅱ B	2 単位
I	社会心理学研究法Ⅲ A	2 単位
	社会心理学研究法Ⅲ B	2 単位
J	社会心理学研究法Ⅳ	2 単位
	社会心理学研究法Ⅴ	2 単位

(3) 社会調査結果を用いた研究論文（修士論文を含む）を執筆すること。

- ここで言う社会調査とは、定量調査あるいは定性調査を指し、他者の調査したデータの二次的利用は含まない。
- 定性調査には、内容分析、聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析、フィールドワーク、インタビュー、ライフヒストリー分析、会話分析などを含む。
- 修士論文以外の研究論文とは、原則として学術団体の学会誌に、査読を経て掲載された研究論文を指す。
- 申請時には、研究論文（修士論文を含む）2部（同じものを2部）の提出が必要である。

■申請手続

大学院教務課を通じて社会調査協会に申請する。

「申請書類・提出方法・提出期間」の詳細は、2021年1月頃大学院教務課の掲示で確認すること。

申請に必要な書類

- | | |
|----------------------------|-------|
| ① 専門社会調査士認定申請書 | ★ |
| ② 履歴書 | ★ |
| ③ 研究論文概要説明書（修士論文を含む） | ★ |
| ④ 研究論文（修士論文を含む）同じものを2部 | |
| ⑤ 単位取得・修士修了を証明する書類 | ☆ |
| ⑥ 手数料振り込み後の振替払込請求書兼受領証のコピー | ☆ (注) |
| 【以下、社会調査士資格を同時に申請する場合のみ】 | |
| ⑦ 社会調査士認定申請書 | ★ |
| ⑧ 大学での単位取得・卒業を証明する書類 | ☆ |

★：社会調査協会のホームページ (<http://jasr.or.jp/>) よりフォームをダウンロード、記入

☆：大学院教務課で入手

（注） 大学院教務課で配付する振込用紙で、手数料を振り込み、振替払込請求書兼受領証のコピーを⑥に貼り付けること。

※ 手数料は、以下のとおり。

- 社会調査士資格を取得している学生 : 33,000円
- 社会調査士資格を取得していない学生 : 44,000円
(いずれも2019年度参考)

東洋大学大学院社会学研究科規程

平成29年規程第28号

平成29年4月1日

施行

改正 平成30年4月1日 平成31年4月1日

(趣旨)

第1条 この規程は、東洋大学大学院学則（昭和29年4月1日施行。以下「学則」という。）第4条第5項に基づき、東洋大学大学院社会学研究科（以下「社会学研究科」という。）の教育研究に関し必要な事項を定める。

(人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的)

第2条 社会学研究科は、学則第4条の2に基づき、研究科及び各専攻の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を別表第1のとおり定める。

(修了の認定及び学位授与、教育課程の編成及び実施並びに入学者の受入れに関する方針)

第3条 社会学研究科は、学則第4条の3に基づき、各専攻の修了の認定及び学位授与に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針並びに入学者の受入れに関する方針を別表第2のとおり定める。

(教育課程)

第4条 社会学研究科は、学則第5条の2及び第7条に基づき、各専攻の教育課程における科目区分、授業科目及び研究指導科目的名称、単位数、配当学年、履修方法等を別表第3のとおり定める。

(修了に必要な単位等)

第5条 社会学研究科は、学則第12条及び第13条に基づき、各専攻の修了に必要な単位等を別表第4のとおり定める。

(教育職員の免許状)

第6条 学則第19条に基づき、社会学研究科で取得できる免許状の種類及び教科は、次表のとおりとする。

専攻	免許状の種類及び教科	
	高等学校教諭専修免許状	中学校教諭専修免許状
社会学	公民	社会
社会心理学	公民	-

(教育職員の免許状取得のための授業科目及び単位数)

第7条 学則第19条第2項に基づき、社会学研究科で教育職員の免許状を取得しようとする者は、別表第5に定める所定の授業科目的単位を修得し、東洋大学大学院（以下「本大学院」という。）の課程に1年以上在学し30単位以上修得、又は学則第12条に規定する要件を充足しなければならない。

(改正)

第8条 この規程の改正は、学長が社会学研究科委員会の意見を聴き、研究科長会議の審議を経て行う。

附 則

1 この規程は、平成29年4月1日から施行する。

2 前項の規定にかかわらず、平成28年度以前の入学生については、第4条別表第3を除き、なお従前の例による。

附 則

1 この規程は、平成30年4月1日から施行する。

2 前項の規定にかかわらず、平成29年度以前の入学生については、改正後の第3条及び第3条別表第2並びに第4条別表第3を除き、なお従前の例による。

附 則

1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。

2 前項の規定にかかわらず、平成30年度以前の入学については、第4条別表第3を除き、なお従前の例による。

別表第1 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（第2条関係）

社会学研究科

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
【博士前期課程】
(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 現代社会の諸問題を解決するために幅広く社会学・文化人類学・社会情報学・社会心理学・社会福祉学の成果を活用できる人材を養成することを目的とする。
(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 社会学・文化人類学・社会情報学・社会心理学・社会福祉学およびその関連する分野に関する高度な専門知識を基盤に現代社会における諸問題を解明し、実証的研究を行う能力、研究倫理への理解、研究成果を発信する能力を習得させることを教育研究上の目的とする。
【博士後期課程】
(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 現代社会の諸問題を解決するために幅広く社会学・文化人類学・社会情報学・社会心理学・社会福祉学の成果を高度に活用できる研究者・教育者等の養成を目的とする。
(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 社会学・文化人類学・社会情報学・社会心理学およびその関連する分野に関する高度な専門知識を基盤に、現代社会における諸問題を解明し、実証的研究を行い、研究倫理への理解を持ち、研究成果を発信できる、研究者・教育者として卓越した能力を習得させることを教育研究上の目的とする。

社会学研究科社会学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
【博士前期課程】
(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 高度な専門知識・能力を基盤に、現代社会の諸問題を解明し、その解決のための施策を探求する優れた職業人、研究者、教育者の養成を目指す。
(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 現代社会の多様な問題の解明に係る3つのコース、現代社会学コース、社会文化共生学コース、メディアコミュニケーション学コースを設け、高度な専門知識・能力を身につけた研究者、及び高度な能力を身につけた専門職業人の養成することを目的とする。
【博士後期課程】
(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 高度な専門知識・能力を基盤に、現代社会の諸問題を解明し、その解決のための施策を探求し、国際社会でリーダーシップをとって活躍できる優れた職業人、研究者、教育者の養成を目指す。
(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 現代社会の多様な問題について、倫理性を重視しつつ、理論、実証、応用にわたって、高度な専門的知識・能力により、国際的な視野をもって独創的な研究を行う研究者及び大学教員の養成を目的とする。

社会学研究科社会心理学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的
【博士前期課程】
(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 社会心理学の多様な知見に基づいて、さまざまな社会状況における人間の認知や行動の特性を深く理解し、よりよい人間社会の構築に貢献できる人材を養成することを目的とする。
(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 社会心理学の実証的研究方法を実践的に学び、高い倫理観のもとに人間社会の諸問題を客観的に探究し、研究成果を公表できる能力を習得させることを目的とする。
【博士後期課程】
(1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか 社会心理学の高度な専門的知識と研究実践力をもとに、国際社会に目を向けたリーダーシップを備え、研究や教育の場で活躍できる人材を養成することを目的とする。
(2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的 現代の人間社会で生じるさまざまな問題に关心を向け、その理解と解決のために社会心理学の成果を活用し、かつ高い倫理観と国際的な視野のもとに独自の研究を遂行できる能力を習得させることを目的とする。

社会学研究科福祉社会システム専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

【修士課程】

- (1) どのような人材を養成し、どのような人材を世に送り出すか

社会や労働、福祉、教育、文化などのシステムについての高度な知識をふまえ、具体的な解決・改善策の提案能力を備えた高度職業人や豊かな知的資源を有する社会人として、さらには学際的な研究者として、福祉社会の実現に貢献する人材を養成することを目的とする。

- (2) 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育研究上の目的

職業や人生経験を通じて形成される人の歩みを「ライフキャリア」と呼び、そのライフキャリアを通じて蓄積される知が、「実践知」である。福祉社会システム専攻では、この実践知を鍛え、ライフキャリアのさらなる展開をめざす実務家や社会人を積極的に受け入れ、現代社会におけるさまざまなレベルでの複雑な事象や社会的な課題を、社会学、社会福祉学を中心とした学際的な視点から検討するために必要な能力を習得させることを目的とする。

別表第2 修了の認定及び学位授与、教育課程の編成及び実施並びに入学者の受入れに関する方針（第3条関係）

社会学研究科社会学専攻

1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）
【博士前期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文または特定の課題についての研究の成果（特定課題研究論文）の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。 (1) 社会学・文化人類学・社会情報学およびその関連する分野に関する高度な専門的知識を身につけている。 (2) 関連領域の専門的知識を基盤に、現代社会における諸問題を解明し、その解決を探求するための実証的研究を行なう能力を身につけている。 (3) 研究倫理の重要性を理解し、研究成果を発信する能力を身につけている。
【博士後期課程】 以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。 (1) 社会学・文化人類学・社会情報学およびその関連する分野に関する高度な専門的知識を身につけ、国内外の研究者と議論できる能力を身につけている。 (2) 関連領域の専門的知識を基盤に、現代社会における諸問題を解明し、その解決を探求するために、国際的な視点をもって独創的研究を遂行する能力を身につけている。 (3) 研究倫理の重要性を理解し、国内だけではなく海外で研究成果を発信する能力を身につけている。
2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）
【博士前期課程】 (1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成している。授業科目としては「基礎科目」「現代社会学コース科目」「社会文化共生学コース科目」「メディアコミュニケーション学コース科目」を設け、少人数制のきめ細かい体系的指導を通して、社会学・文化人類学・社会情報学および関連する分野の専門的知識と実証的研究方法を教授する。研究指導は、学生の研究テーマに応じて研究計画の段階から個別に指導にあたり、調査研究の実施、学会等での発表、修士論文も含めた論文の執筆を指導する。 (2) 学修成果の評価 学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。 ①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。
【博士後期課程】 (1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法 ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目は「社会学特殊研究」「文化人類学特殊研究」「社会情報学特殊研究」を設け、少人数制のきめ細かい体系的指導を通して、社会学・文化人類学・社会情報学および関連する分野の高度な専門的知識と実証的研究方法を教授する。研究指導は、学生の研究テーマに応じて研究計画の段階から個別に指導にあたり、調査研究の実施、学会等での発表、博士論文も含めた論文の執筆を指導する。 (2) 学修成果の評価 学修成果については、客観性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。 ①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。 ②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。 ③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。
3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）
【博士前期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。 (1) 現代社会が直面している諸問題に関する知識のある者。 (2) 客観的かつ論理的にものごとを考え、自ら研究テーマを設定し研究を遂行していく能力のある者。 (3) 関連分野における専門的知識を身につけ、現代社会の諸問題を解明し、その解決のための施策を探求しようとする意欲のある者。
【博士後期課程】 入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。 (1) 社会学・文化人類学・社会情報学およびその関連分野における研究成果と実証的研究方法についての知識のある者。 (2) 國際的な視点に立って独創的な研究を遂行する能力のある者。 (3) 関連分野における高度な専門的知識と研究遂行能力を身につけ、現代社会の諸問題を解明し、その解決のための施策を探求し、社会に貢献しようとする意欲のある者。

社会学研究科社会心理学専攻

1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【博士前期課程】

以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。

- (1) 国内・海外を問わず公表された、多様な社会心理学の研究成果を理解し応用できるための基本的な知識を身につけている。
- (2) 社会心理学のさまざまな実証的研究方法を理解し、問題に応じた研究方法を立案・計画して実践する能力を身につけている。
- (3) 研究倫理の重要性を深く理解し、高い倫理観のもとに人間社会を対象とした実証研究を行うことのできる技能を身につけている。

【博士後期課程】

以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限を満たし、博士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、博士の学位を授与する。

- (1) 国内・海外を問わず公表された、社会心理学の研究成果とその社会的意義について批判的に考察し、さまざまな視点から議論することのできる能力を身につけている。
- (2) 現代の人間社会における諸問題について、社会心理学的観点から考察し、実証的研究へと展開することのできる洞察力を身につけている。
- (3) 研究倫理の重要性を深く理解し、自ら高い倫理観をもって社会心理学の実証研究を行えるとともに、指導的立場から他者に伝えることのできる能力を身につけている。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

【博士前期課程】

(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成している。授業科目では、社会心理学研究の前提となる基礎知識を学ぶ「基礎社会心理学」を1年次の春学期に開講する。また、社会心理学のさまざまな実証的研究方法を学ぶための「社会心理学研究法」を複数開講し、そのいくつかは「専門社会調査士」の資格認定科目に位置づける。社会心理学の研究成果を幅広く学べるように、さまざまな領域を対象とする「社会心理学特論」と「社会心理学演習」を開講し、選択的に学べるようにする。教員と学生の全員参加により総合的視点から研究内容を検討する「社会心理学総合研究」や、国際化対応のための「外国語表現法」も設置する。研究指導では、さまざまな領域を専門とする教員が、学生の研究テーマに応じて研究計画の段階からきめ細かく指導にあたり、研究の実施、学会等での発表、修士論文も含めた論文の執筆を指導する。

(2) 学修成果の評価

学修成果については、客觀性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

【博士後期課程】

(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせた教育課程を体系的に編成する。授業科目では、さまざまな研究領域を対象とする「社会心理学特殊研究」で、専門分野を深く学べるようにする。教員と学生の全員参加により総合的視点から研究内容を検討する「社会心理学総合研究」も開講する。研究指導では、さまざまな領域を専門とする教員が、学生の研究テーマに応じて研究計画の段階からきめ細かく指導にあたり、研究の実施、学会等での発表、博士論文も含めた論文の執筆を指導する。

(2) 学修成果の評価

学修成果については、客觀性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

【博士前期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 社会心理学が、個人と社会に関するどのような現象を研究対象としているのかについての知識のある者。
- (2) 直観や常識だけに頼らずに、客觀的かつ論理的にものごとを考えることのできる能力のある者。
- (3) 社会心理学のさまざまな研究成果を学び、それに基づいて自らの研究テーマを深く探究しようとする意欲のある者。

【博士後期課程】

入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した者を受け入れる。

- (1) 社会心理学のさまざまな研究成果や、さまざまな実証的研究方法についての知識のある者。
- (2) 國際的な視野に立って、自らの研究テーマを設定し、実証的研究を進め、成果を公表できる能力のある者。
- (3) 社会心理学に関する高度な専門知識と研究遂行力を身につけ、研究や教育を通して社会に貢献しようとする意欲のある者。

社会学研究科福祉社会システム専攻

1. 修了の認定及び学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【修士課程】

本研究科・専攻における人材養成に関する目的および教育研究上の目的を踏まえ、以下の資質や能力を身につけたうえで、所定の年限・単位数等を満たし、修士学位論文もしくは特定課題研究論文の審査及び最終試験に合格した者に対して、修士の学位を授与する。

- (1) 研究の基本的技能と、職業・人生経験を知的に再構成するうえでの実践知と理論に関する学習を修めている。
- (2) 質問紙調査やケーススタディ、二次データの解析など、実証的な社会調査手法を修得している。
- (3) 社会や労働、福祉、教育、文化などのシステムについての高度な知識を有している。
- (4) 実践知と理論の間を自由に行き来し、現実の社会的・福祉的課題に関する具体的な解決・改善策の提案能力を備えた高度職業人として、または豊かな知識的資源を有する社会人として、あるいは学際的な視点から社会・福祉領域の課題に取り組む研究者として、福祉社会の実現に貢献し得る資質を身につけている。

2. 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

【修士課程】

(1) 教育課程の編成 / 教育内容・方法

ディプロマ・ポリシーの達成のために、社会学、社会福祉学を中心に、現代社会のさまざまなレベルでの複雑な事象や社会的な課題に取り組む研究を行う教員によって、「授業科目（コースワーク）」と「研究指導（リサーチワーク）」を適切に組み合わせ、専門性と学際性を兼ね備えた多様な教育・研究活動を展開する、高度かつ専門的なリカレント教育への要請や、実践知の探求、学際的な研究者の養成に適うカリキュラムを編成している。授業科目は、専門科目と基礎科目に区分し、基礎科目では、研究の基礎的技能を学ぶ「研究基礎論」と、職業・人生経験を知的に再構成するうえでの実践知と理論の統合を目指す「実践知と理論」とを必修とし、その他、社会調査の方法論などを配置している。

研究指導では多様な学生の幅広い関心に基づきつつ、質問紙調査やケーススタディ、二次データの解析など、実証的な社会調査手法を重視した指導を行う。

教育方法においては、特に社会人学生のワーク・スタディバランスを考慮し、かつ、社会人学生の多様な学びを支援し、円滑な学位取得を実現するため履修モデルを設定し、柔軟性の高い修学プロセスのマネージメントを行う。

また、授業・研究指導を通して、ライフキャリアのさらなる発展にむけた、多角的かつ学際的な視点を養うとともに、現代社会における社会や労働、福祉、教育、文化などについての深い知識の獲得と、それに基づく具体的な対策の提案能力の習得を図る。

(2) 学修成果の評価

学修成果については、客觀性及び厳格性を確保しつつ、以下の要素・方法により評価する。

- ①授業科目については、あらかじめ示す成績評価基準に沿って、各授業科目のシラバスに記載されている方法により、授業担当教員が評価する。
- ②研究指導については、研究過程における達成度を、あらかじめ示す研究指導計画をもとに、論文報告会等を通じて、研究指導教員および本専攻所属教員により組織的に評価する。
- ③学位請求論文については、あらかじめ示す論文審査基準、審査体制に基づき、評価を行う。

3. 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

【修士課程】

高度かつ専門的なリカレント教育を求める職業人、人生経験の知的な再構成を求める社会人、研究職をめざす新卒生など、入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、以下の資質や能力を示した、夜間に通う必要がある者を受け入れる。

- (1) 職業人・社会人については職業や人生における経験知を有する者、新卒者には社会学、社会福祉学はもとより隣接する社会諸科学・人文諸科学の基礎知識を学部教育において習得した者
- (2) 職業人・社会人においては実践知を鍛え、ライフキャリアのさらなる展開にむけて、多面的・多層的なアプローチをおこなう資質や能力のある者、新卒者には広義の社会学、社会福祉学の研究課題に取り組み考察する能力のある者
- (3) 職業人・社会人および新卒者ともに、具体的な社会問題を踏まえた研究テーマに主体的に取り組むために、フィールド・リサーチの現場で多様な人々と協働して学ぶ態度を有する者

別表第3 教育課程（第4条関係）

省略する。

別表第4 修了に必要な単位等（第5条関係）

省略する。

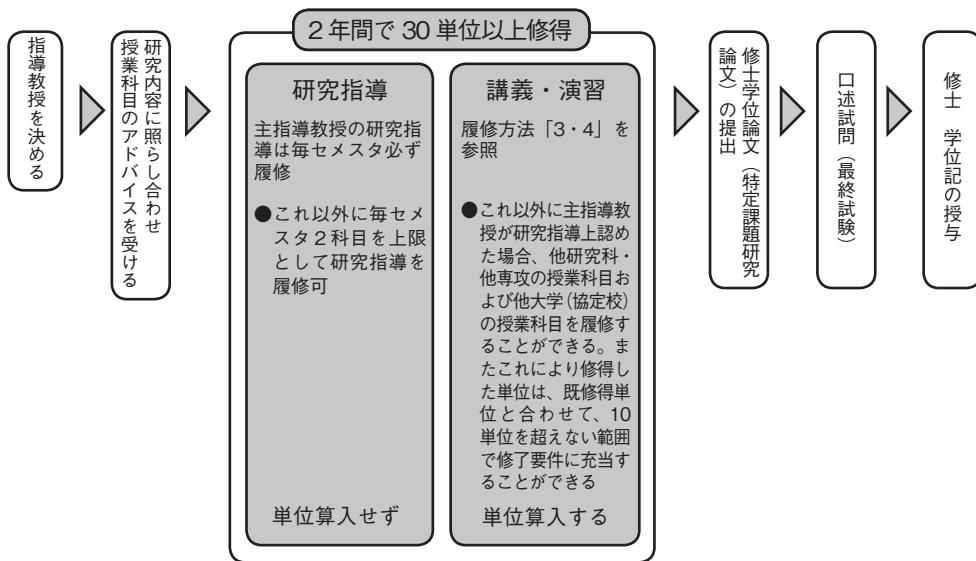
別表第5 教育職員の免許状取得のための授業科目及び単位数（第7条関係）

省略する。

社会学専攻

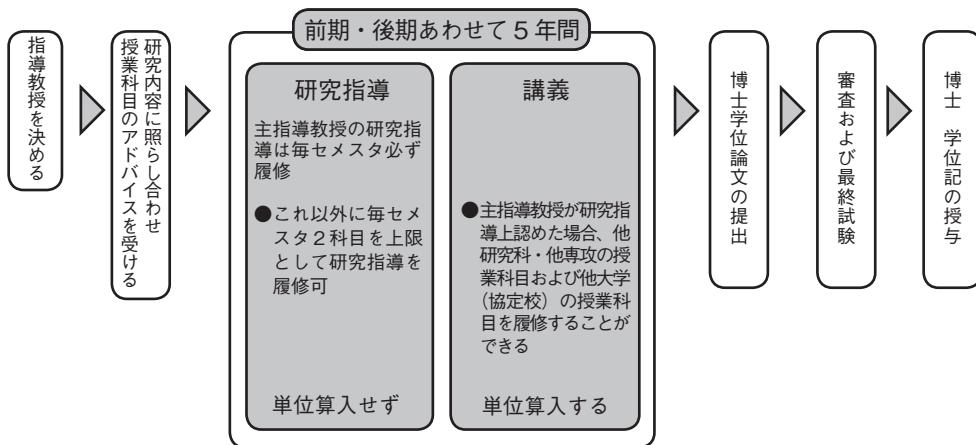
前期課程

履修の流れ



後期課程

履修の流れ



ただし、2014年度以前入学生についてはセメスタを年度に読み替える

※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

社会学専攻

博士前期課程

	授業科目・研究指導			サブタイトル	単位	科目ナンバリング	学期	講義・演習の別	担当教員	備考
基礎科目	原書	講	読	I A	現代社会学分野	2 SOC601	春秋	講義	中山 伸樹	
	原書	講	読	I B		2 SOC602				
	原書	講	読	II A	社会文化共生学分野	2 SOC603	春秋	講義	山本 須美子	
	原書	講	読	II B		2 SOC604				
	原書	講	読	III A	社会情報学分野	2 SOC605				本年度休講
	原書	講	読	III B	社会科学方法論	2 SOC606				
	原書	会	学	特論 I A	情報検索・データベース論	2 SOC607	春	講義	荒川 敏彦	
	原書	会	学	特論 II A		2 SOC608				
	原書	会	学	特論 II B	社会調査法	2 SOC609	春秋	講義	大谷 奈緒子	
	原書	会	学	特論 III A		2 SOC610	春秋	講義	山田 一成	
	原書	会	学	特論 III B		2 SOC611				
	原書	会	学	特論 IV A	統計解析および多変量解析	2 SOC612	春秋	講義	尾崎 幸謙	
	原書	会	学	特論 IV B		2 SOC613				
	社外	国語	表現	V A	質的調査法1	2 SOC614	春	講義	長津 一史	
	社外	国語	表現	B	質的調査法2	2 SOC615	春	講義	水野 剛也	
現代社会学コース科目	社会	会	学	特論 V	英語ライティング	2 FLE601	春秋	講義	トバロフ リュボミール	
	社会	会	学	特論 VI	英語プレゼンテーション	2 FLE602		講義	グラフ デイヴィッド	
	社会	会	学	特論 VII A	現代社会思想論	2 SOC616	春秋	講義	中野 敏男	
	社会	会	学	VII B		2 SOC617				
	社会	会	学	VIII A	現代家族社会学	2 SOC618	春秋	講義	西野 理子	社会学研究指導 I A/B と共通
	社会	会	学	VIII B		2 SOC619				
	社会	会	学	IX A	現代文化社会学	2 SOC620				本年度休講
	社会	会	学	IX B		2 SOC621				
	社会	会	学	X A	現代地域社会学	2 SOC622	春秋	講義	西野 淑美	社会学研究指導 III A/B と共通
	社会	会	学	X B		2 SOC623				
	社会	会	学	特論 X I A	特別講義	2 SOC624		講義		本年度休講
	社会	会	学	演習 I A	現代社会学理論	2 SOC625	春秋	演習	宇都宮 京子	社会学研究指導 IV A/B と共通
	社会	会	学	演習 I B		2 SOC626				
	社会	会	学	演習 II A	現代組織社会学	2 SOC627	春秋	演習	小山 裕	社会学研究指導 V A/B と共通
	社会	会	学	演習 II B		2 SOC628				
社会文化共生学コース科目	文化	人類学	特論 III A	現代犯罪社会学	2 SOC629	春秋	演習			本年度休講
	文化	人類学	特論 III B		2 SOC630					
	文化	人類学	特論 IV A	現代宗教社会学	2 SOC631	春秋	演習	高橋 典史	社会学研究指導 VII A/B と共通	
	文化	人類学	特論 IV B		2 SOC632					
	文化	人類学	演習 V A	現代国際社会学	2 SOC633	春秋	演習	米原 あき	社会学研究指導 VIII A/B と共通	
	文化	人類学	演習 V B		2 SOC634					
	文化	人類学	特論 I A	社会文化共生論	2 CUA601	春秋	講義	井沢 泰樹	文化人類学研究指導 IV A/B と共通	
	文化	人類学	特論 I B		2 CUA602					
	文化	人類学	特論 II A	文化共生史	2 CUA603	春秋	講義	三沢 伸生		
	文化	人類学	特論 II B		2 CUA604					
	文化	人類学	特論 III A	環境共生論	2 CUA605					本年度休講
	文化	人類学	特論 III B		2 CUA606					
	文化	人類学	特論 IV A	地域共生論	2 CUA607	春秋	講義	小林 正夫	文化人類学研究指導 V A/B と共通	
	文化	人類学	特論 IV B		2 CUA608					
	文化	人類学	特論 V A	社会貢献概論	2 CUA609	春秋	講義	浜本 篤史	文化人類学研究指導 I A/B と共通	
	文化	人類学	特論 V B		2 CUA610					
	文化	人類学	特論 VI A	民族誌学	2 CUA611	春秋	講義	長津 一史	文化人類学研究指導 VI A/B と共通	
	文化	人類学	特論 VI B		2 CUA612					
	文化	人類学	特論 VII A	文化人類学	2 CUA613					本年度休講
	文化	人類学	特論 VII B		2 CUA614					
	文化	人類学	特論 VIII A	特別講義	2 CUA615	春秋	講義	川瀬 由高	集中講義	
	文化	人類学	特論 IX A	社会貢献組織論	2 CUA616					
	文化	人類学	特論 IX B		2 CUA617					
	文化	人類学	演習 I A	社会人類学	2 CUA618	春秋	演習			本年度休講
	文化	人類学	演習 I B		2 CUA619					
	文化	人類学	演習 II A	教育人類学	2 CUA620	春秋	演習	山本 須美子	文化人類学研究指導 III A/B と共通	
	文化	人類学	演習 II B		2 CUA621					

	授業科目・研究指導	サブタイトル	単位	粗 ナンパリング	学期	講義・ 演習の別	担当教員	備考
メディアコミュニケーション学コース科目	社会情報学特論ⅠA	マス・コミュニケーション論	2	SOC635	春秋	講義	長 広 美	社会情報学研究指導VA/Bと共に
	社会情報学特論ⅠB		2	SOC636	春秋			
	社会情報学特論ⅡA	広 告 論	2	SOC637	春秋	講義	蘭 部 靖 史	社会情報学研究指導VI A/Bと共に
	社会情報学特論ⅡB		2	SOC638	春秋			
	社会情報学特論ⅢA	社会情報学	2	SOC639		講義		本年度休講
	社会情報学特論ⅢB		2	SOC640				
	社会情報学特論ⅣA	情 報 学	2	SOC641		講義		本年度休講
	社会情報学特論ⅣB		2	SOC642				
	社会情報学特論Ⅴ	特 別 講 義	2	SOC643	秋	講義	石 山 玲 子	
	社会情報学演習ⅠA	マス・コミュニケーション論	2	SOC644	春秋	演習	大 谷 奈緒子	社会情報学研究指導IA/Bと共に
	社会情報学演習ⅠB		2	SOC645	春秋			
	社会情報学演習ⅡA	ジャーナリズム論	2	SOC646	春秋	演習	水 野 剛 也	
	社会情報学演習ⅡB		2	SOC647	春秋			
	社会情報学演習ⅢA	社会情報学	2	SOC648	春秋	演習	小笠原 盛 浩	社会情報学研究指導III A①/B①と共に
	社会情報学演習ⅢB		2	SOC649	春秋			
	社会情報学演習ⅣA	情 報 学	2	SOC650	春秋	演習	海 野 敏	社会情報学研究指導IV A/Bと共に
	社会情報学演習ⅣB		2	SOC651	春秋			
現代社会学コース研究指導	社会学研究指導ⅠA	現代家族社会学		REG601	春秋		西 野 理 子	
	社会学研究指導ⅠB			REG602				
	社会学研究指導ⅡA	現代文化社会学		REG603				本年度休講
	社会学研究指導ⅡB			REG604				
	社会学研究指導ⅢA	現代地域社会学		REG605	春秋		西 野 淑 美	
	社会学研究指導ⅢB			REG606				
	社会学研究指導ⅣA	現代社会学理論		REG607	春秋		宇都宮 京 子	
	社会学研究指導ⅣB			REG608				
	社会学研究指導ⅤA	現代組織社会学		REG609	春秋		小 山 裕	
	社会学研究指導ⅤB			REG610				
	社会学研究指導ⅥA	現代犯罪社会学		REG611				本年度休講
	社会学研究指導ⅥB			REG612				
	社会学研究指導ⅦA	現代宗教社会学		REG613	春秋		高 橋 典 史	
	社会学研究指導ⅦB			REG614				
	社会学研究指導ⅧA	現代国際社会学		REG615	春秋		米 原 あ き	
	社会学研究指導ⅧB			REG616				
社会文化共生学コース研究指導	文化人類学研究指導ⅠA	社会貢献概論		REG617	春秋		浜 本 篤 史	
	文化人類学研究指導ⅠB			REG618				
	文化人類学研究指導ⅡA	社会人 類 学		REG619				本年度休講
	文化人類学研究指導ⅡB			REG620				
	文化人類学研究指導ⅢA	教育人 類 学		REG621	春秋		山 本 須美子	
	文化人類学研究指導ⅢB			REG622				
	文化人類学研究指導ⅣA	社会文化共生論		REG623	春秋		井 沢 泰 樹	
	文化人類学研究指導ⅣB			REG624				
	文化人類学研究指導ⅤA	地 域 共 生 論		REG625	春秋		小 林 正 夫	
	文化人類学研究指導ⅤB			REG626				
	文化人類学研究指導ⅥA	民 族 誌 学		REG627	春秋		長 津 一 史	
	文化人類学研究指導ⅥB			REG628				

	授業科目・研究指導	サブタイトル	単位	科 目 ナ ン バ リ ン グ	学 期	講義・ 演習 の別	担当教員	備考
メ ディ ア コ ミ ュ ニ ケ シ ョ ン 学 コ ース 研 究 指 導	社会情報学研究指導ⅠA	マス・コミュニケーション論	REG629	春秋			大 谷 奈緒子	
	社会情報学研究指導ⅠB		REG630					
	社会情報学研究指導ⅡA	ジャーナリズム論	REG631					本年度休講
	社会情報学研究指導ⅡB		REG632					
	社会情報学研究指導ⅢA①	社会情報学	REG633	春秋			小笠原 盛 浩	
	社会情報学研究指導ⅢB①		REG634					
	社会情報学研究指導ⅢA②	社会情報学	REG635					本年度休講
	社会情報学研究指導ⅢB②		REG636					
	社会情報学研究指導ⅣA	情 報 学	REG637	春秋			海 野 敏	
	社会情報学研究指導ⅣB		REG638					
メ ディ ア コ ミ ュ ニ ケ シ ョ ン 学 コ ース 研 究 指 導	社会情報学研究指導VA	マス・コミュニケーション論	REG639	春秋			長 広 美	
	社会情報学研究指導VB		REG640					
	社会情報学研究指導VI A	広 告 論	REG641	春秋			蘭 部 靖 史	
	社会情報学研究指導VI B		REG642					

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義または演習において行う）。
3. 主指導教授が担当する「講義」または「演習」は、同一科目を在学中各2回（8単位）まで履修・単位修得することができ、かつ修得した単位は修了単位として認められる。3回目以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修・聴講は、成績および単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。なお、ここで対象とする「講義」または「演習」は、「研究指導」と共通して開講されるものに限る。
4. 履修方法3以外の「講義」または「演習」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができるが、この場合、修了単位として認められるのは、最初に修得した成績および単位のみとする。
5. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

■専門社会調査士の資格取得希望者は、pp.150～151を参照のうえ、不明な点があれば、2020年度本学連絡責任者（長津一史教授）または大学院教務課窓口に必ず相談すること。

博士後期課程

授業科目・研究指導							講義・演習の別	担当教員	備考
2014年度以前入学生適用	単位	2015年度以降入学生適用	単位	科目ナンバリング	学期				
社会学特殊研究 I	4	社会学特殊研究 I A	2	SOC701	春秋	講義	宇都宮京子	社会学研究指導IA/Bと共に	
		社会学特殊研究 I B	2	SOC702	春秋	講義	高橋典史	社会学研究指導IV A/Bと共に	
社会学特殊研究 II	4	社会学特殊研究 II A	2	SOC703	春秋	講義		本年度休講	
		社会学特殊研究 II B	2	SOC704	春秋	講義		本年度休講	
社会学特殊研究 III	4	社会学特殊研究 III A	2	SOC705	春秋	講義		本年度休講	
		社会学特殊研究 III B	2	SOC706	春秋	講義		本年度休講	
社会学特殊研究 IV	4	社会学特殊研究 IV A	2	SOC707	春秋	講義		本年度休講	
		社会学特殊研究 IV B	2	SOC708	春秋	講義		本年度休講	
社会学特殊研究 V	4	社会学特殊研究 V A	2	SOC709	春秋	講義		本年度休講	
		社会学特殊研究 V B	2	SOC710	春秋	講義		本年度休講	
社会学特殊研究 VI	4	社会学特殊研究 VI A	2	SOC711	春秋	講義	西野理子	社会学研究指導VI A/Bと共に	
		社会学特殊研究 VI B	2	SOC712	春秋	講義	長津一史	文化人類学研究指導I A/Bと共に	
文化人類学特殊研究	4	文化人類学特殊研究 I A	2	CUA701	春秋	講義		文化人類学研究指導II A/Bと共に	
		文化人類学特殊研究 I B	2	CUA702	春秋	講義		文化人類学研究指導III A/Bと共に	
文化人類学特殊研究 II A	2	文化人類学特殊研究 II A	2	CUA703	春秋	講義	山本須美子	社会情報学研究指導I A/Bと共に	
文化人類学特殊研究 II B	2	文化人類学特殊研究 II B	2	CUA704	春秋	講義		本年度休講	
社会情報学特殊研究 I	4	社会情報学特殊研究 I A	2	SOC713	春秋	講義	海野敏	社会情報学研究指導II A/Bと共に	
		社会情報学特殊研究 I B	2	SOC714	春秋	講義		本年度休講	
社会情報学特殊研究 II	4	社会情報学特殊研究 II A	2	SOC715	春秋	講義		本年度休講	
		社会情報学特殊研究 II B	2	SOC716	春秋	講義		本年度休講	
社会情報学特殊研究 III	4	社会情報学特殊研究 III A	2	SOC717	春秋	講義		本年度休講	
		社会情報学特殊研究 III B	2	SOC718	春秋	講義		社会情報学研究指導IV A/Bと共に	
社会情報学特殊研究 IV A	2	社会情報学特殊研究 IV A	2	SOC719	春秋	講義	長広美		
社会情報学特殊研究 IV B	2	社会情報学特殊研究 IV B	2	SOC720	春秋	講義			
社会学研究指導 I		社会学研究指導 I A		REG701	春秋		宇都宮京子		
		社会学研究指導 I B		REG702	春秋			本年度休講	
社会学研究指導 II		社会学研究指導 II A		REG703	春秋			本年度休講	
		社会学研究指導 II B		REG704	春秋				
社会学研究指導 III		社会学研究指導 III A		REG705	春秋				
		社会学研究指導 III B		REG706	春秋				
社会学研究指導 IV		社会学研究指導 IV A		REG707	春秋		高橋典史		
		社会学研究指導 IV B		REG708	春秋				
社会学研究指導 V		社会学研究指導 V A		REG711	春秋			本年度休講	
		社会学研究指導 V B		REG712	春秋				
社会学研究指導 VI		社会学研究指導 VI A		REG709	春秋		西野理子		
		社会学研究指導 VI B		REG710	春秋				
文化人類学研究指導		文化人類学研究指導 I A		REG713	春秋		長津一史		
		文化人類学研究指導 I B		REG714	春秋				
文化人類学研究指導 II A		文化人類学研究指導 II A		REG715	春秋		山本須美子		
文化人類学研究指導 II B		文化人類学研究指導 II B		REG716	春秋				
社会情報学研究指導 I		社会情報学研究指導 I A		REG717	春秋		海野敏		
		社会情報学研究指導 I B		REG718	春秋				
社会情報学研究指導 II		社会情報学研究指導 II A		REG719	春秋			本年度休講	
		社会情報学研究指導 II B		REG720	春秋				
社会情報学研究指導 III		社会情報学研究指導 III A		REG721	春秋			本年度休講	
		社会情報学研究指導 III B		REG722	春秋				
社会情報学研究指導 IV A		社会情報学研究指導 IV A		REG723	春秋		長広美		
社会情報学研究指導 IV B		社会情報学研究指導 IV B		REG724	春秋				

修了に必要な単位等

主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

- 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
- 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得ができる（各研究指導は、指定された講義において行う）。
- 本表に掲げたもの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

注) 通年制の学生は、「セメスタ」を「年度」と読み替えること。

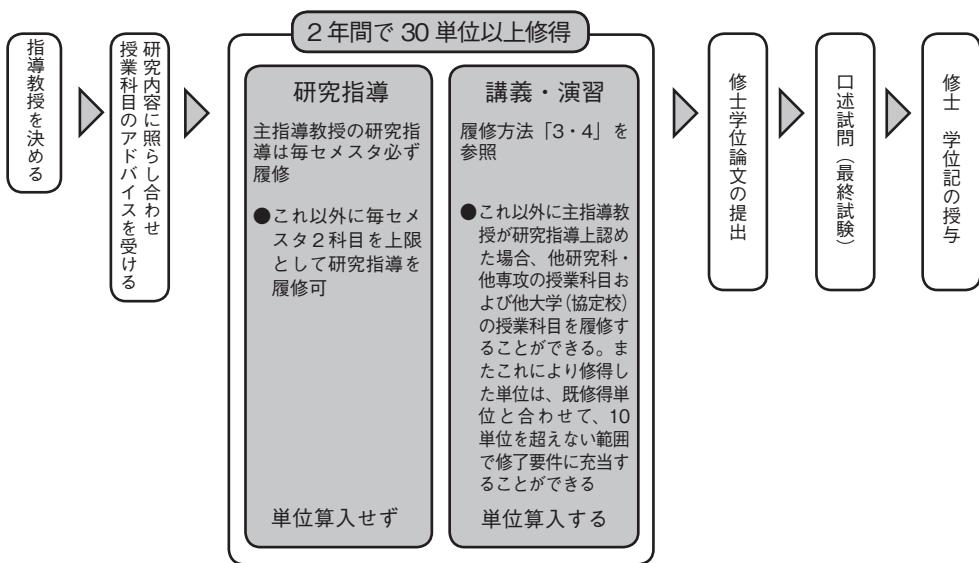
■専門社会調査士の資格取得希望者は、pp.150～151を参照のうえ、不明な点があれば、2020年度本学連絡責任者（長津一史教授）または大学院教務課窓口に必ず相談すること。

（資格申請のための要件のうち、p.150 (2) ①の科目は、博士前期課程開講科目のため、修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）

社会心理学専攻

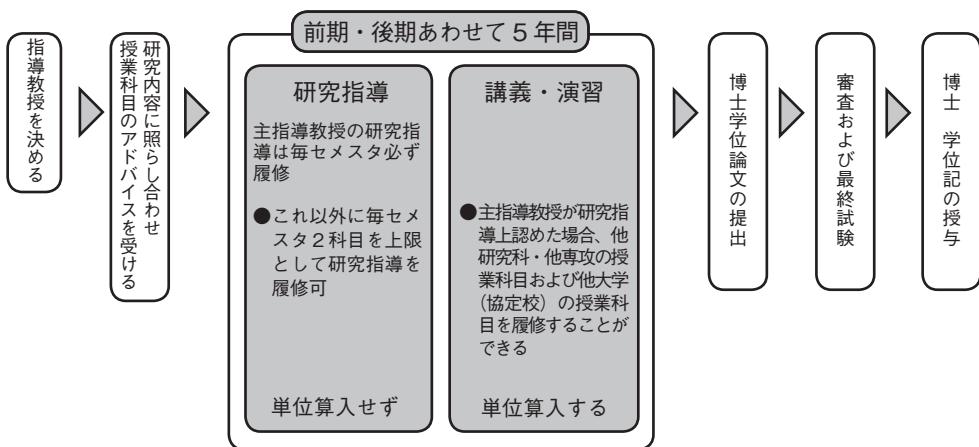
前期課程

履修の流れ



後期課程

履修の流れ



ただし、2014年度以前入学生についてはセメスタを年度に読み替える

※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

社会心理学専攻

博士前期課程

授業科目・研究指導	サブタイトル	単位	科目ナンバリング	学期	講義・演習の別	担当教員	備考
基礎社会心理学		2	SOP601	春	講義	山田一成	
外国語表現法A	英語ライティング	2	FLE601	春	講義	トパロフリュボミール	
外国語表現法B	英語プレゼンテーション	2	FLE602	春秋	講義	グラフディイヴィッド	
社会心理学研究法ⅠA	情報処理	2	SOP602	春秋	講義	大島尚	社会心理学研究指導XA/Bと共に
社会心理学研究法ⅠB		2	SOP603	春秋	講義	大島尚	
社会心理学研究法ⅡA	調査法	2	SOC603	春	講義	大谷奈緒子	
社会心理学研究法ⅡB		2	SOC604	春秋	講義	山田一成	
社会心理学研究法ⅢA	統計解析および多変量解析	2	SOC605	春秋	講義	尾崎幸謙	
社会心理学研究法ⅢB		2	SOC606	春秋	講義	尾崎幸謙	
社会心理学研究法Ⅳ	質的調査法1	2	SOC607	春	講義	長津一史	
社会心理学研究法V	質的調査法2	2	SOC608	春	講義	水野剛也	
社会心理学研究法VI A	実験法	2	EXP601	春秋	講義	尾崎由佳	
社会心理学研究法VI B		2	EXP602	春秋	講義	尾崎由佳	
社会心理学特論ⅠA	認知	2	EXP603	春秋	講義	尾崎由佳	社会心理学研究指導ⅡA/Bと共に
社会心理学特論ⅠB		2	EXP604	春秋	講義	尾崎由佳	
社会心理学特論ⅡA	対人関係	2	SOP604	春秋	講義	片山美由紀	社会心理学研究指導ⅡA/Bと共に
社会心理学特論ⅡB		2	SOP605	春秋	講義	片山美由紀	
社会心理学特論ⅢA	発達	2	EDP601	春秋	講義	久保ゆかり	社会心理学研究指導ⅥA/Bと共に
社会心理学特論ⅢB		2	EDP602	春秋	講義	久保ゆかり	
社会心理学特論ⅣA	適応	2	SOP606		講義		本年度休講 隔年開講
社会心理学特論ⅣB		2	SOP607		講義		
社会心理学特論VA	感情・動機づけ	2	EXP605	春秋	講義	戸梶亜紀彦	社会心理学研究指導IXA/Bと共に
社会心理学特論VB		2	EXP606	春秋	講義	戸梶亜紀彦	
社会心理学特論VI A	精神病理学	2	CLI601	春秋	講義	角田京子	
社会心理学特論VI B		2	CLI602	春秋	講義	角田京子	
社会心理学特論VII A	健	2	CLI603	春秋	講義	加藤司	社会心理学研究指導XI A/Bと共に
社会心理学特論VII B	康	2	CLI604	春秋	講義	加藤司	
社会心理学演習IA	度	2	SOP608	春秋	演習	北村英哉	社会心理学研究指導IA/Bと共に
社会心理学演習IB		2	SOP609	春秋	演習	北村英哉	
社会心理学演習IIA	自己	2	SOP610	春秋	演習	安藤清志	社会心理学研究指導III A/Bと共に
社会心理学演習IIB		2	SOP611	春秋	演習	安藤清志	
社会心理学演習III A	性格	2	CLI605	春秋	演習	松田英子	社会心理学研究指導VA/Bと共に
社会心理学演習III B		2	CLI606	春秋	演習	松田英子	
社会心理学演習IV A	集団過程	2	SOP612	春秋	演習	堀毛一也	社会心理学研究指導IV A/Bと共に
社会心理学演習IV B		2	SOP613	春秋	演習	堀毛一也	
社会心理学演習VA	犯罪	2	CLI607	春秋	演習	桐生正幸	社会心理学研究指導VIA/Bと共に
社会心理学演習VB		2	CLI608	春秋	演習	桐生正幸	
社会心理学演習VI A	社会意識	2	SOP614	春秋	演習	山田一成	社会心理学研究指導VIA/Bと共に
社会心理学演習VI B		2	SOP615	春秋	演習	山田一成	
社会心理学総合研究A①		1	SEM601	春秋	演習	安藤清志	
社会心理学総合研究B①		1	SEM602	春秋	演習	安藤清志	
社会心理学総合研究A②		1	SEM603		演習		本年度休講
社会心理学総合研究B②		1	SEM604		演習		
社会心理学総合研究A③		1	SEM605	春秋	演習	尾崎由佳	
社会心理学総合研究B③		1	SEM606	春秋	演習	尾崎由佳	
社会心理学総合研究A④		1	SEM607	春秋	演習	片山美由紀	
社会心理学総合研究B④		1	SEM608	春秋	演習	片山美由紀	
社会心理学総合研究A⑤		1	SEM609	春秋	演習	久保ゆかり	
社会心理学総合研究B⑤		1	SEM610	春秋	演習	久保ゆかり	
社会心理学総合研究A⑥		1	SEM611	春秋	演習	戸梶亜紀彦	
社会心理学総合研究B⑥		1	SEM612	春秋	演習	戸梶亜紀彦	
社会心理学総合研究A⑦		1	SEM613	春秋	演習		本年度休講
社会心理学総合研究B⑦		1	SEM614	春秋	演習		
社会心理学総合研究A⑧		1	SEM615	春秋	演習	北村英哉	
社会心理学総合研究B⑧		1	SEM616	春秋	演習	北村英哉	

授業科目・研究指導	サブタイトル	単位	科目ナンバリング	学期	講義・演習の別	担当教員	備考
社会心理学総合研究 A ⑨		1	SEM617	春秋	演習	松田英子	
社会心理学総合研究 B ⑨		1	SEM618				
社会心理学総合研究 A ⑩		1	SEM619				
社会心理学総合研究 B ⑩		1	SEM620				本年度休講
社会心理学総合研究 A ⑪		1	SEM621	春秋	演習	桐生正幸	
社会心理学総合研究 B ⑪		1	SEM622				
社会心理学総合研究 A ⑫		1	SEM623	春秋	演習	山田一成	
社会心理学総合研究 B ⑫		1	SEM624				
社会心理学総合研究 A ⑬		1	SEM625	春秋	演習	加藤司	
社会心理学総合研究 B ⑬		1	SEM626				
社会心理学研究指導 I A	態 度		REG601	春秋		北村英哉	
社会心理学研究指導 I B			REG602				
社会心理学研究指導 II A	認 知		REG603	春秋		尾崎由佳	
社会心理学研究指導 II B			REG604				
社会心理学研究指導 III A	自 己		REG605	春秋		安藤清志	
社会心理学研究指導 III B			REG606				
社会心理学研究指導 IV A	集団過程		REG607	春秋		堀毛一也	
社会心理学研究指導 IV B			REG608				
社会心理学研究指導 V A	性 格		REG609	春秋		松田英子	
社会心理学研究指導 V B			REG610				
社会心理学研究指導 VI A	発 達		REG611	春秋		久保ゆかり	
社会心理学研究指導 VI B			REG612				
社会心理学研究指導 VII A	犯 罪		REG613	春秋		桐生正幸	
社会心理学研究指導 VII B			REG614				
社会心理学研究指導 VIII A	社会意識		REG615	春秋		山田一成	
社会心理学研究指導 VIII B			REG616				
社会心理学研究指導 IX A	感情・動機づけ		REG617	春秋		戸梶亜紀彦	
社会心理学研究指導 IX B			REG618				
社会心理学研究指導 X A	情 報 处理		REG619	春秋		大島尚	
社会心理学研究指導 X B			REG620				
社会心理学研究指導 XI A	対人関係		REG621	春		片山美由紀	
社会心理学研究指導 XI B			REG622	春秋			
社会心理学研究指導 XII A	健 康		REG623	春秋		加藤司	
社会心理学研究指導 XII B			REG624				

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義または演習において行う）。
3. 主指導教授が担当する「講義」または「演習」は、同一科目を在学中各2回（8単位）まで履修・単位修得することができ、かつ修得した単位は修了単位として認められる。
3回目以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修・聴講は、成績および単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。なお、ここで対象とする「講義」または「演習」は、「研究指導」と共通して開講されるものに限る。
4. 履修方法3以外の「講義」または「演習」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得することができるが、この場合、修了単位として認められるのは、最初に修得した成績および単位のみとする。
5. 本表に掲げたものの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。
また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。

■専門社会調査士の資格取得希望者は、pp.150～151を参照のうえ、不明な点があれば、2020年度本学連絡責任者（長津一史教授）または大学院教務課窓口に必ず相談すること。

博士後期課程

授業科目・研究指導						講義・演習の別	担当教員	備考
2014年度以前 入学生適用	単位	2015年度以降 入学生適用	単位	科目 ナンパリング	学期			
社会心理学特殊研究 I	4	社会心理学特殊研究 I A	2	PSY701	春秋	講義	大島 尚	社会心理学研究指導 V A / Bと共に
		社会心理学特殊研究 I B	2	PSY702	春秋	講義	加藤 司	社会心理学研究指導 I A / Bと共に
社会心理学特殊研究 II	4	社会心理学特殊研究 II A	2	PSY703	春秋	講義	北村 英哉	社会心理学研究指導 III A / Bと共に
		社会心理学特殊研究 II B	2	PSY704	春秋	講義	安藤 清志	社会心理学研究指導 II A / Bと共に
社会心理学特殊研究 III	4	社会心理学特殊研究 III A	2	PSY705	春秋	講義	松田 英子	社会心理学研究指導 VII A / Bと共に
		社会心理学特殊研究 III B	2	PSY706	春秋	講義	久保 ゆかり	社会心理学研究指導 IX A / Bと共に
社会心理学特殊研究 IV	4	社会心理学特殊研究 IV A	2	PSY707	春秋	講義	堀毛 一也	社会心理学研究指導 III A / Bと共に
		社会心理学特殊研究 IV B	2	PSY708	春秋	講義	戸梶 亜紀彦	社会心理学研究指導 X A / Bと共に
社会心理学特殊研究 V	4	社会心理学特殊研究 V A	2	PSY709	春秋	講義	桐生 正幸	社会心理学研究指導 IV A / Bと共に
		社会心理学特殊研究 V B	2	PSY710	春秋	講義	尾崎 由佳	社会心理学研究指導 VI A / Bと共に
社会心理学特殊研究 VI	4	社会心理学特殊研究 VI A	2	PSY711	春秋	講義	山田 一成	社会心理学研究指導 XI A / Bと共に
		社会心理学特殊研究 VI B	2	PSY712	春秋	講義		本年度休講
社会心理学特殊研究 VII	4	社会心理学特殊研究 VII A	2	PSY713	春秋	講義		
		社会心理学特殊研究 VII B	2	PSY714	春秋	講義		
社会心理学特殊研究 VIII	4	社会心理学特殊研究 VIII A	2	PSY715	春秋	講義		
		社会心理学特殊研究 VIII B	2	PSY716	春秋	講義		
社会心理学特殊研究 IX	4	社会心理学特殊研究 IX A	2	PSY717	春秋	講義		
		社会心理学特殊研究 IX B	2	PSY718	春秋	講義		
社会心理学特殊研究 X A	2	社会心理学特殊研究 X A	2	PSY719	春秋	講義		
社会心理学特殊研究 X B	2	社会心理学特殊研究 X B	2	PSY720	春秋	講義		
社会心理学特殊研究 XI A	2	社会心理学特殊研究 XI A	2	PSY721	春秋	講義		
社会心理学特殊研究 XI B	2	社会心理学特殊研究 XI B	2	PSY722	春秋	講義		
社会心理学総合研究①	2	社会心理学総合研究 A①	1	SEM701		演習		
		社会心理学総合研究 B①	1	SEM702		演習		
社会心理学総合研究②	2	社会心理学総合研究 A②	1	SEM703	春秋	演習	加藤 司	
		社会心理学総合研究 B②	1	SEM704	春秋	演習	北村 英哉	
社会心理学総合研究③	2	社会心理学総合研究 A③	1	SEM705	春秋	演習	安藤 清志	
		社会心理学総合研究 B③	1	SEM706	春秋	演習	松田 英子	
社会心理学総合研究④	2	社会心理学総合研究 A④	1	SEM707	春秋	演習	久保 ゆかり	
		社会心理学総合研究 B④	1	SEM708	春秋	演習		本年度休講
社会心理学総合研究⑤	2	社会心理学総合研究 A⑤	1	SEM709	春秋	演習		
		社会心理学総合研究 B⑤	1	SEM710	春秋	演習		
社会心理学総合研究⑥	2	社会心理学総合研究 A⑥	1	SEM711	春秋	演習		
		社会心理学総合研究 B⑥	1	SEM712	春秋	演習		
社会心理学総合研究⑦	2	社会心理学総合研究 A⑦	1	SEM713	春秋	演習		
		社会心理学総合研究 B⑦	1	SEM714	春秋	演習		
社会心理学総合研究⑧	2	社会心理学総合研究 A⑧	1	SEM715	春秋	演習	戸梶 亜紀彦	
		社会心理学総合研究 B⑧	1	SEM716	春秋	演習	桐生 正幸	
社会心理学総合研究⑨	2	社会心理学総合研究 A⑨	1	SEM717	春秋	演習	尾崎 由佳	
		社会心理学総合研究 B⑨	1	SEM718	春秋	演習	山田 一成	
社会心理学総合研究 A⑩	1	社会心理学総合研究 A⑩	1	SEM719	春秋	演習		
社会心理学総合研究 B⑩	1	社会心理学総合研究 B⑩	1	SEM720	春秋	演習		
社会心理学総合研究 A⑪	1	社会心理学総合研究 A⑪	1	SEM721	春秋	演習		
社会心理学総合研究 B⑪	1	社会心理学総合研究 B⑪	1	SEM722	春秋	演習		
社会心理学研究指導 I		社会心理学研究指導 I A		REG701	春秋		加藤 司	
		社会心理学研究指導 I B		REG702	春秋		安藤 清志	
社会心理学研究指導 II		社会心理学研究指導 II A		REG703	春秋		堀毛 一也	
		社会心理学研究指導 II B		REG704	春秋		桐生 正幸	
社会心理学研究指導 III		社会心理学研究指導 III A		REG705	春秋		大島 尚	
		社会心理学研究指導 III B		REG706	春秋			
社会心理学研究指導 IV		社会心理学研究指導 IV A		REG707	春秋			
		社会心理学研究指導 IV B		REG708	春秋			
社会心理学研究指導 V		社会心理学研究指導 V A		REG709	春秋			
		社会心理学研究指導 V B		REG710	春秋			
社会心理学研究指導 VI A		社会心理学研究指導 VI A		REG711	春秋			
社会心理学研究指導 VI B		社会心理学研究指導 VI B		REG712	春秋			
社会心理学研究指導 VII A		社会心理学研究指導 VII A		REG713	春秋			
社会心理学研究指導 VII B		社会心理学研究指導 VII B		REG714	春秋			
社会心理学研究指導 VIII A		社会心理学研究指導 VIII A		REG715	春秋			
社会心理学研究指導 VIII B		社会心理学研究指導 VIII B		REG716	春秋			
社会心理学研究指導 IX A		社会心理学研究指導 IX A		REG717	春秋			
社会心理学研究指導 IX B		社会心理学研究指導 IX B		REG718	春秋			
社会心理学研究指導 X A		社会心理学研究指導 X A		REG719	春秋			
社会心理学研究指導 X B		社会心理学研究指導 X B		REG720	春秋			
社会心理学研究指導 XI A		社会心理学研究指導 XI A		REG721	春秋			
社会心理学研究指導 XI B		社会心理学研究指導 XI B		REG722	春秋			

修了に必要な単位等

主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスター毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる（各研究指導は、指定された講義において行う）。
3. 本表に掲げたものの他、指導教授が研究指導上必要と認めた場合は、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる。

注) 通年制の学生は、「セメスター」を「年度」と読み替えること。

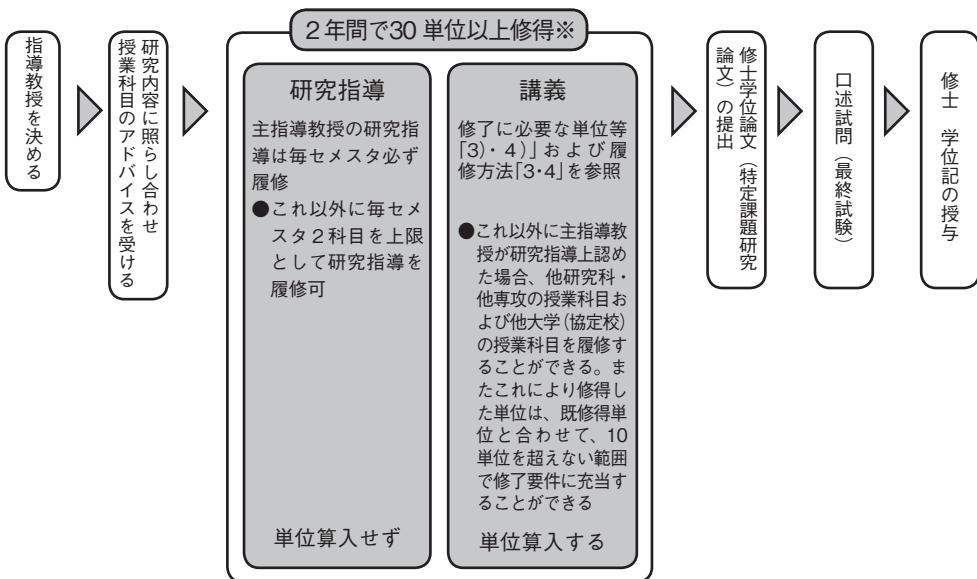
■専門社会調査士の資格取得希望者は、pp.150～151を参照のうえ、不明な点があれば、2020年度本学連絡責任者（長津一史教授）または大学院教務課窓口に必ず相談すること。

（資格申請のための要件のうち、p.151 (2) ②の科目は、博士前期課程開講科目のため、修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）

福祉社会システム専攻

修士課程

履修の流れ



特定課題研究論文を修士学位論文に代える場合は、2年間で36単位以上修得

※本専攻では、授業内容の理解や自身の研究を一層深めるために、授業及び研究指導の一環として、海外における調査・研究や学会への参加・発表を奨励しています。

福祉社会システム専攻

修士課程

区分	授業科目	単位	科目ナンバリング	学期	講義・演習の別	担当教員	備考
基礎科目	研究基礎論	2	SEM601	春	講義	小須高荻榎村	澤田直樹史子
	実践知と理論	2	SEM602	秋	講義	原尾	綿子祐美子
	現代社会論	2	SOC601		講義	原尾	圭子
	社会調査論	2	SOC602	春	講義	小山	弘美
	研究方法論A（量的データの分析）	2	SOC603	秋	講義	大槻	茂実
	研究方法論B（質的データの分析）	2	SOC604	秋	講義	中野	佑一
専門科目（社会学系）	社会学的認識論A	2	SOC605		講義		
	社会学的認識論B	2	SOC606		講義		本年度休講
	グローバリゼーションと現代社会A	2	CUA601		講義		
	グローバリゼーションと現代社会B	2	CUA602		講義		本年度休講
	グローバリゼーションとボランティア・非営利組織論	2	SOC607	秋	講義	須田	木綿子
	地域と現代社会A	2	SOC608		講義		
	地域と現代社会B	2	SOC609		講義		本年度休講
	教育システムと現代社会A	2	SOE601	春	講義	小澤	浩明
	教育システムと現代社会B	2	SOE602	秋	講義		福祉社会システム研究指導IVA/Bと共に
	雇用・労働システムと現代社会A	2	SOC610	春	講義	村尾	祐美子
	雇用・労働システムと現代社会B	2	SOC611	秋	講義		福祉社会システム研究指導VA/Bと共に
	キャリアデザイン論A	2	SOC616	春	講義	榎原	圭子
	キャリアデザイン論B	2	SOC617	秋	講義		福祉社会システム研究指導XA/Bと共に
	ジェンダーと現代社会	2	SOC613	春	講義	皆川	満寿美
	子どもと現代社会	2	SOC614	秋	講義	立柳	聰
	貧困と現代社会	2	SOC615	秋	講義	北川	由紀彦
専門科目（福祉学系）	高齢者ケアシステム論A	2	SWS601	春	講義	須田	木綿子
	高齢者ケアシステム論B	2	SWS602	秋	講義		福祉社会システム研究指導VIA/Bと共に
	ソーシャルワークと権利擁護論A	2	SWS603	春	講義	高山	直樹
	ソーシャルワークと権利擁護論B	2	SWS604	秋	講義		福祉社会システム研究指導VIIA/Bと共に
	多文化共生システム論A	2	SWS605	春	講義	荻野	剛史
	多文化共生システム論B	2	SWS606	秋	講義		福祉社会システム研究指導IXA/Bと共に
	グローバリゼーションと社会福祉	2	SWS607	秋	講義	新名	正弥
	ケアマネジメントと地域包括ケアシステム論	2	SWS608	春	講義	藤林	慶子
	スーパービジョン・実践評価論	2	SWS609	秋	演習		福祉社会システム研究指導VI A/Bと共に
	コミュニケーション・ソーシャルワーク論	2	SWS610	春	講義	和秀	俊
	ソーシャルワーク論	2	SWS611	秋	演習	久松	信夫
	障害者ソーシャルワーク論	2	SWS612	秋	講義	大村	美保
	医療ソーシャルワーク論	2	SWS613	秋	講義	若林	浩司
	精神保健福祉論	2	SWS614	春	講義	山口	創生
	保健福祉サービスマネジメント論	2	SWS615		講義		本年度休講 隔年開講
	医学と福祉・社会学的課題A	2	RSW601	春	講義	高橋	龍太郎
	医学と福祉・社会学的課題B	2	RSW602	秋	講義		集中講義

区分	授業科目	単位	科目ナンバリング	学期	講義・演習の別	担当教員	備考
研究指導	福祉社会システム研究指導ⅠA		REG601				本年度休講
	福祉社会システム研究指導ⅠB		REG602				
	福祉社会システム研究指導ⅡA		REG603				本年度休講
	福祉社会システム研究指導ⅡB		REG604				
	福祉社会システム研究指導ⅢA		REG605				本年度休講
	福祉社会システム研究指導ⅢB		REG606				
	福祉社会システム研究指導ⅣA		REG607	春秋		小澤浩明	
	福祉社会システム研究指導ⅣB		REG608	春秋		村尾祐美子	
	福祉社会システム研究指導VA		REG609	春秋			
	福祉社会システム研究指導VB		REG610	春秋			
	福祉社会システム研究指導VI A		REG611	春秋		藤林慶子	2019年度以前入学生対象
	福祉社会システム研究指導VI B		REG612	春秋			
	福祉社会システム研究指導VII A		REG613	春秋		須田木綿子	
	福祉社会システム研究指導VII B		REG614	春秋			
	福祉社会システム研究指導VIII A		REG615	春秋		高山直樹	
	福祉社会システム研究指導VIII B		REG616	春秋			
	福祉社会システム研究指導IX A		REG617	春秋		荻野剛史	
	福祉社会システム研究指導IX B		REG618	春秋			
	福祉社会システム研究指導XA		REG619	春		榎原圭子	
	福祉社会システム研究指導XB		REG620	秋			

修了に必要な単位等

- 1) 修了要件となる科目で30単位以上修得すること。ただし、修士論文に代えて学則第12条の特定の課題についての研究成果により審査を受けようとする者は、修了要件となる科目で36単位以上修得すること。
- 2) 主指導教授の「研究指導」を、毎セメスタ必ず履修すること。
- 3) 基礎科目
 - ①全体で4科目8単位以上修得すること。
 - ②必修科目2科目4単位を修得すること。
 - ③選択科目から2科目4単位以上修得すること。
- 4) 専門科目
 - ①全体で6科目12単位以上修得すること。
 - ②社会学系から3科目6単位を修得すること。
 - ③福祉学系から3科目6単位を修得すること。

履修方法

1. 履修する授業科目は、指導教授の指示を受けて決定すること。
2. 指導教授は、主指導教授1名・副指導教授1名の計2名とする。ただし、主指導教授の判断により、副指導教授が2名となる場合がある。「研究指導」は、セメスタ毎に3科目（主指導教授1名・副指導教授2名）を上限として、履修・修得することができる。
3. 主指導教授が担当する「演習」または「講義」は、在学中各2回（8単位）まで履修・単位修得ができる、かつ修得した単位は修了単位として認められる。
3回目以降（長期履修学生および原級した場合等）の履修・聴講は、成績および単位は認定されるが、修了要件としては扱わない。なお、該当する科目は大学院要覧において定める。
4. 履修方法3以外の「演習」または「講義」は、同一科目を在学中何回でも履修・単位修得ができるが、この場合、修了単位として認められるのは、最初に修得した成績および単位のみとする。
5. 本表に掲げたもの他、指導教授が教育上必要と認めるときは、学則第8条に基づき、本大学院の他研究科・専攻の授業科目および他大学（協定校）の授業科目を履修することができる（同一科目は1回目のみ修了要件として扱い、2回目以降の履修によって修得した成績及び単位は認定されるが、修了要件としては扱わない）。
また、上記により履修し修得した単位は、学則第10条の2に基づく、本大学院に入学する前に修得し、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなす単位（既修得単位）と合わせて、10単位を超えない範囲で修了要件に充当することができる。